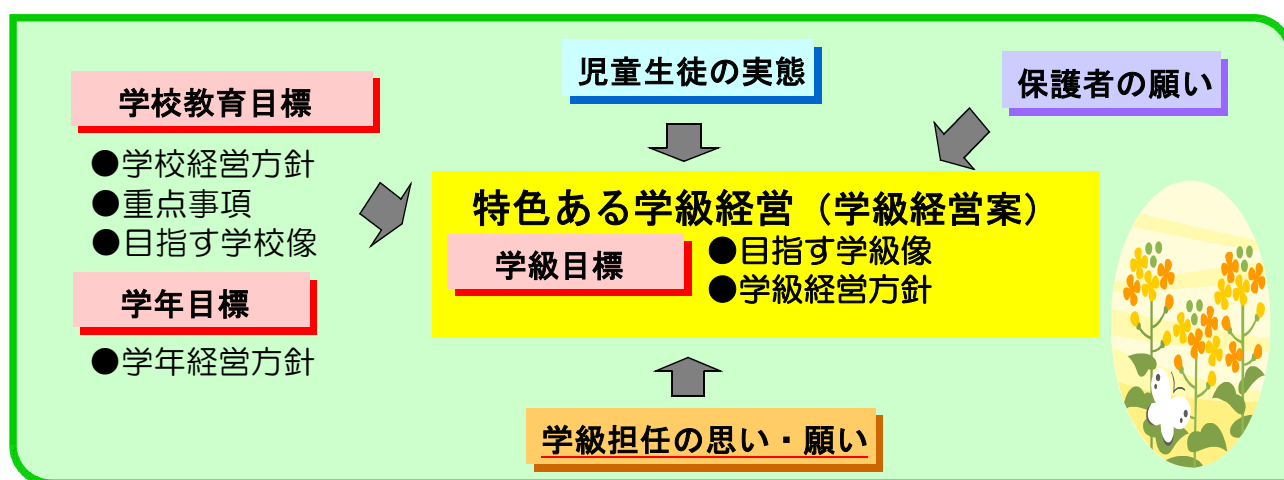


よりよい学級づくりのために

～年度当初4・5月の学級経営～ 平成25年5月7日発行

年度初めに当たり、学級担任の先生は、新しい子どもたちと出会い、学級づくりを進めていることと思います。学級担任としてどのような学級を創っていきますか？
ここでは、学級経営を行うに当たって留意すべきことをまとめてみます。

1 学級担任としての経営ビジョンをもちましょう



学級経営に当たって配慮すべき内容には、次のものがあります。

▶学校教育目標

関係する法令などを踏まえ、地域や児童生徒の実態をよく見極め、学校の全職員の共通理解のもと、学校経営者である校長が定めるものです。本年度の学校経営方針や重点事項、目指す学校像などが具体的に示されます。これを具現化する場が学年・学級です。

▶学年目標

学校教育目標の具現化を目指して、各学年の発達段階に応じた具体的な目標を示したものです。教育活動の連絡調整や指導・助言を行う立場にある学年主任が設定します。学年職員で共通理解を図り、同一学年の他学級と連携した取組が求められます。

▶児童生徒の実態

担任することになった子どもたちの様子から、実態を把握します。

(1) 昨年度からの申し送り

(保育所(園)・幼稚園、小・中学校間の連絡資料、前学年からの引継ぎ資料など)

(2) 新年度に入学・進級してからの児童生徒の記述

(生活記録、学級日誌、入学・進級時の作文、個人目標など)

(3) 4月の学級スタート以来の児童生徒の観察

様々な角度から子どもを見つめ、正しい児童生徒理解に努めましょう。

▶保護者の願い

保護者からの意見や要望、家庭での子どもの様子についての情報を入手します。

(年度当初の学級懇談会、家庭訪問、日常の電話連絡や連絡帳でのやり取りなど)



▶学級担任の思い・願い

学級担任の先生としてのあなたの思い・願いが、学級経営のエネルギーとなります。あなたは、どのような子どもを育てたいのですか？

“子どもが好き”で教職を志した原点を大切に、自身の学級経営に自分らしさ、オリジナリティを加えましょう。児童生徒への接し方をはじめ、学級経営の手法、学級担任の先生のカラーは様々です。他の先生に学びつつ、自分らしさを追求していくことが大切です。

学級は、学校の“家庭”です。どの子どもにとっても、“学校生活の居場所”、“学習の居場所”、そして“心の居場所”となる学級を創りましょう。

2 目指す学級像のイメージを明確にしましょう

学級担任が思い描く「目指す学級像」が、学級経営のもととなるものです。あなたは、どのような学級を目指しますか？

【目指す学級像(例)】

○温かくまとまりのある学級

楽しい、明るい、元気な、前向きな、思いやりのある、助け合いのある学級に

○規律と節度のある学級

基本的な生活習慣が定着している、みんながルールを守れる、環境が整備された学級に

○質の高い授業が展開できる学級

互いの意見を尊重し合える、話し合いが活発にできる、互いが高め合える学級に

3 目指す学級像を具現化する手だてを考えましょう

～目指す学級像を達成するために～

【学級担任としての基本的な姿勢】

- ▶良いところを見つけ具体的に褒める
- ▶係活動や当番活動に責任をもたせ、その成果を互いに認め合う
- ▶基本的な事項を繰り返し指導する
- ▶(最終限度の)決まりを徹底させる
- ▶学習ルール、躰を徹底する

【担任と子どもの温かい人間関係づくり】

- ▶一人一人の子どもを多面的にみて、正しい児童生徒理解に努める
- ▶たとえ小さな変容であってもみんなで賞賛する
- ▶子どもの活動の結果よりプロセスを大切に、適切に支援しながら成功体験を味わわせる
- ▶限りなく優しく、そして厳しく
(厳しさは、子どもを思う教師の温かさから表出するものです。「優しさ」とは何か、「厳しさ」とはどういうことをいうのか、しっかりとした自分自身の考え方をもちましょう)

【保護者との連携】

- ▶学級だより、連絡帳等による積極的な情報提供を行う
- ▶家庭訪問、個人面談により積極的な教育相談を行う
- ▶学級担任として嬉しかったことを積極的に伝える

